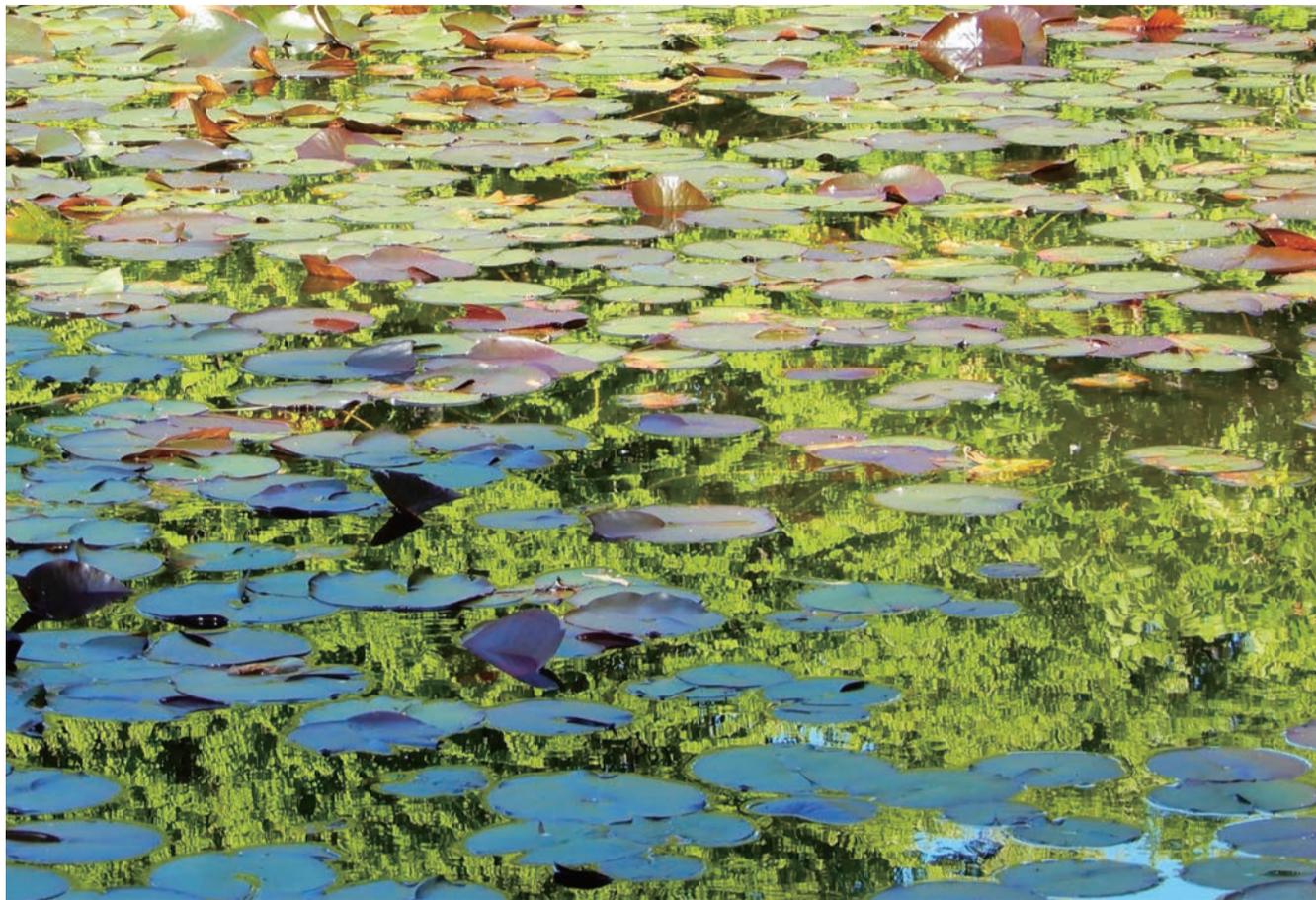


発行所

札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部同窓会  
TEL&FAX(011)706-5007  
E-mail:furate@med.hokudai.ac.jp  
https://hokudai-med-dousou.com

編集人 矢部 一郎  
発行人 浅香 正博

# 北大医学部同窓会新聞



「大野池の睡蓮」

えびな やすひこ  
蝦名 康彦(66期)

## CONTENTS

- (1)・副会長再任のご挨拶 ……佐久間一郎  
・副会長就任のご挨拶 ……笠原 正典
- (2)・計報 名誉教授  
井上 芳郎先生(会員2)を偲んで 神谷 温之  
・計報 名誉教授  
北島 顕先生(会員2)を偲んで…安斉 俊久  
・教授退任のご挨拶 ……福原 崇介  
・教授就任のご挨拶 ……和田 剛志
- (3)・エルムの仲間達へ⑬ ……笹本 洋一  
・ズームアップ⑩ ……千丈 創
- (4)・新世紀の医学に向けて(50) ……今野 哲  
・海外で活躍する同窓生(33) ……吉田 修也
- (5)・新歓隊長 ……武田 稜也  
・告知板  
・フラテ110号発行のお知らせ  
・新刊書紹介をご希望の方へ
- (6)・事務局からお知らせ  
・百年記念館の利用について  
・過年度会費が2年を超える会費未納者と  
同窓会員名簿の発送について  
・北海道医学会からお知らせ  
・【令和6年度同窓会員名簿】  
記載事項確認のお願い  
・ご逝去者  
・一面の写真説明 ・編集後記

### 副会長再任のご挨拶



さくま いちろう  
佐久間 一郎(55期)

この度、浅香正博会長のご推挙と評議員会のご賛同をいただき、学外からの副会長として4度目の再任を仰せつかりました。発熱外来を行っておりますと、いまだにCovid-19感染の流行が繰り返されていると実感しており、同窓会会員の皆様もご苦労されていることとお察し申し上げます。この時期に、北大医学部同窓会副会長の大役を再びお受けすることとなり、大変身の引き締まる思いです。

私が医学部に在籍中に、当時北海道大学病院長でおられた浅香会長が委員長として「北海道大学病院研修医制度」を策定され、私は副委員長として研修医募集を担当させていただきました。ところが同制度施行以降、在籍先不明の卒業生が多くなり、同窓会名簿で空欄の多い期が増え、同窓会費収入も減少致しました。しかし8年前に浅香正博先生の御英断で、医学部生は入学時に同窓会へ入会するように規約が改正され、若い会員が増え、本会の活性化が得られたと共に、安定して同窓会費収入が確保できるようになりました。

ただ、医学部各期の同窓会費納入率はそう高くない場合もあり、50%以下の期も認められます。同窓会費未納の

場合は、未納分の納入を事務局から、当該会員にご依頼しているところです。ただ、累積未納額が多額となっている場合、納入が難しくなることもあるかと存じますが、ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

現在、私の同期(55期)の寶金清博北大総長が、浅香会長のご支援を受け、北大の各種改革・新規事業等を遂行中ですが、彼の任期(2026年3月)の終了後の2026年9月に、北海道大学創基150周年記念式典が予定されております。現在、創基150周年の寄付金募集が行われており、現総長がその任を担っております。寄付金は基金となり、今後その利子が、北大生への就学資金援助等に活用されるとのことです。医学部同窓会員の諸先生におかれましては、医学部創立100周年記念事業にご寄付を賜ったばかりであり、大変恐縮でございますが、本寄付金募集にご協力を賜れば大変幸甚に存じます。

最後に、私は浅香会長をお支えし、大変微力ながら主に実地臨床から、本会の事業等に尽力することをお誓い申し上げます。副会長再任のご挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 副会長就任のご挨拶



かさ はら まさのり  
笠原 正典(56期)

この度、浅香正博会長のご推挙をいただき、副会長を務めさせていただくことになりました。このような大役を仰せつかりまして、身の引き締まる思いです。

私は昭和55年に本学医学部を卒業した後、相沢幹先生が主宰されておりました病理学第一講座に大学院生として所属し、病理学を専攻しました。平成16年に吉木敬先生の後任として同講座の後身である分子病理学分野(現在の統合病理学教室)の教授に就任し、令和3年に定年により退職するまで病理学の教育と研究に従事しておりました。

同窓会においては平成24年度から令和3年度まで10年間にわたり理事を務める機会をいただきました。学内からの理事として、理事会・評議員会等で医学部の現況や課題、同窓会への要望をお伝えし、同窓会の皆様にご協力やご支援をお願いするのが主な役割だったと思います。理事在任中、浅香会長をはじめ同窓会の皆様には大変お世話になり、改めて深く御礼申し上げます。特に感謝しておりますのは、医学部創立100周年記念事業に対して同窓会から頂戴したご支援です。記念事業の準備が始まった平成26年当時、私は医学部長の職にあり、同事業の実行委員長でもありました。浅香会長に事業

計画の概要をご説明し、ご支援をお願いしたところ、快く全面的支援をお約束していただき大いに勇気づけられたことを覚えております。事業はその後、吉岡充弘医学部長に引き継がれ、同先生の卓越した手腕とご尽力により成功裏に終わったことは御存じのとおりです。この事業において皆様からのご寄附によって建築された百年記念館は医学部にとって貴重な財産となっているばかりでなく、併せて設けられた教育研究基金は教職員と学生の皆さんにとって大きな助けになっていると確信しております。

浅香先生が会長に就任されてからさまざまな改革がなされ、かなり厳しい状況にあった同窓会の財政状況が目に見えて改善しました。また、平成26年には学生さんが医学部入学の際に同窓会に入会する制度が導入されました。これを機に、同窓会による学生会員への支援が強化され、学生さんの本会に対する理解と愛着が深まったと思われまます。この愛着が卒業後も生涯にわたって続き、母校愛となって本会と母校の発展につながってくれば有り難いと思っております。微力ながら、浅香会長をお支えして同窓会の発展に尽くす所存でありますので、どうかよろしく願いいたします。



### 訃報 名誉教授 井上 芳郎先生(会員2)を偲んで

神経生物学教室 教授 <sup>かみや</sup> <sup>はるゆき</sup> 神谷 温之(会員2)

北海道大学名誉教授の井上芳郎先生は令和6年5月11日にご逝去されました。享年84歳でした。

井上先生は昭和40年に慶應義塾大学医学部をご卒業され、同解剖学教室で研究生活をスタートされました。当時は神経系における意義が不明であったグリア細胞に着目し、グリア細胞の構築や機能分化、髄鞘形成に関して形態学の視点から先駆的な研究を展開されました。昭和45年に学位取得後はただ

ちに慶應大学解剖学教室で助手となられ、講師、助教授を経て、昭和53年に本学医学部解剖学第一講座に教授として着任されました。就任後は、ご専門の神経解剖学の講義と脳実習に加えて、解剖学第二講座とともに肉眼解剖学を3年ごとに交代で担当し、「解剖学実習指針」を独自に編じて体系的に解剖実習を行う体制を整備し、またこれを支える献体組織である白菊会の立ち上げと運営にご尽力されました。現在の解剖

学教育の基盤となる篤志献体の定着に向けた理解と普及のために、現在まで白菊会の会長をつとめられ、毎年の総会では会員の皆様の質問に常に丁寧な説明をされるよう腐心されてこられました。また神経解剖学の教育ではこれも独自の「神経解剖学講義録」を編じ、CT・MRIなどの画像情報とも対応付けて難解な脳の構造を直感的に理解できるように努め、学生から求められる神経解剖学教育の体系化にご尽力されました。

研究においても常に先進的な手法を取り入れ、ミュータントないし遺伝子改変マウスの形態解析と特異抗体や分子プローブを用いた分子局在解析に関して先駆的な研究を展開されました。卓越した指導力により、本学解剖発生

学教室の渡邊雅彦教授をはじめ、寺島俊雄神戸大教授、永島雅文埼玉医科大学教授、高山千利琉球大学教授、井上馨北海道大学教授、中川伸山口大学教授など多くの後継者を育成されました。

管理運営に関してもリーダーシップを発揮され、平成9年から4年間にわたり医学部長を、平成13年には北海道大学副学長と附属図書館長を、平成16年から18年には北海道大学理事・副学長を歴任され、法人化後の荒波のなか大学のかじ取りに注力されました。

多くの門下生に慕われ、常に周囲へ心配りを忘れない先生の存在の大きさを改めて痛感させられております。ここに謹んで井上先生のご冥福を心よりお祈りいたします。



### 訃報 名誉教授 北畠 顕先生(会員2)を偲んで

循環病態内科学教室 教授 <sup>あんざい</sup> <sup>としひさ</sup> 安齊 俊久(会員2)

北海道大学名誉教授北畠顕先生は、令和6年5月28日にご逝去されました。享年83歳でした。

北畠先生に最初にお目にかかったのは、私がカリフォルニア大学サンディエゴ校に留学中、当時私のボスであったカーク・ハモンド教授を北畠先生が日本心不全学会学術集会にお招きになられた平成10年10月のことでした。私は、ハモンド教授に随行して札幌にお伺いし、北畠先生が主宰されていた循

環病態内科学講座で研究発表の機会をいただきました。北畠先生を筆頭に活発な討論が行われ、私にとっては大変光栄でありました。講演会の後にはすすきで懇親会を開いて下さり、夜遅くまで楽しくお付き合いいただいたことを昨日のこのように思い出します。その20年後、私は北海道大学にご縁を頂き、循環病態内科学教室の教授に就任させていただきました。就任祝賀会には奥様とともにお越しいたご、大

変温かいお言葉を賜りました。その後も同門会総会にはいつもご列席賜り、激励のお言葉をいただきてまいりましたが、令和2年以降はコロナ禍で直接お目にかかることが叶わず、今回の訃報に触れ、残念でなりません。

北畠先生は、平成3年12月に大阪大学内科学第1講座より、当教室第2代教授として赴任され、「循環器学のホットスポットをめざそう」を合言葉に、診療・教育・研究に邁進されました。心臓研究に分子生物学的手法をいち早く導入され、心筋症・心不全の病態や薬物療法の作用機序を解明されるとともに、動脈硬化進展における凝固線溶系や炎症の役割ついでの研究、イオンチャンネル病としての不整脈研究など、幅広い

領域における研究の発展にご尽力され、教室は大きく発展いたしました。また、慢性心不全の治療法に関する全国規模の医師主導臨床研究や関連病院を巻き込んだ急性心筋梗塞症例に対する介入研究など臨床研究も進められました。また、平成7年の国際心臓ドラ学会を皮切りに、平成10年日本心不全学会、平成11年日本超音波医学会、平成12年日本血液代替物学会、平成12年日本臨床薬理学会、平成14年日本循環器学会、平成15年日本エム・イー学会と数多くの学術集會を主催されました。

北畠顕先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大なるご貢献に感謝申し上げます。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 教授退任のご挨拶



病原微生物学教室 教授 <sup>ふくはら</sup> <sup>たかし</sup> 福原 崇介(会員2)

令和6年8月31日付で北海道大学大学院医学研究院病原微生物学教室の教授を退任することになりました福原崇介と申します。退職の挨拶をさせていただきます。令和2年の5月に着任して、4年4ヶ月という短い期間でしたが、北海道大学大学院医学研究院のメンバーとして研究と教育に携わることができたことは私の

誇りです。一方で、中途半端な形で退職ということになり、ご迷惑をおかけした関係者にはここにお詫び申し上げます。

令和2年の5月に着任した時は、新型コロナウイルスのパンデミックが始まったばかりの頃で、新型コロナウイルス研究の経験はありませんでしたが、ウイルス学研究者として新型コロナウイルス研究を行うのは使命だと思い、手探りで研究に着手いたしました。4年間のコロナ研究において、医学研究院の先生方に多大なるサポートをいただきまして、多くの研究成果を発表することができ、日本のCOVID-19対策におい

て微力ながら貢献できたのではないかと考えております。新型コロナウイルスに関する研究成果は現時点で論文として32本になっておりますが、そのうち18本が医学研究院の先生方との共同研究です。共同研究を進めていただきました腫瘍病理学教室、血液内科学教室、腎泌尿器外科学教室、分子神経免疫学教室、細胞生理学教室、免疫学教室、医学統計学教室の先生方には特に厚く御礼申し上げます。また、着任前から続けております肝炎ウイルス研究に関しましても、北大着任後より研究資金の獲得を含めて消化器外科学I、消化

器内科学の先生方とも共同研究を進めさせていただいております。本当にありがたく思っております。大変わがままなお願ひではございますが、引き続き、共同研究を継続させていただければと考えております。

今後は九州大学医学研究院ウイルス学教室に異動し、ウイルス学の研究と教育を続ける予定です。札幌と福岡は飛行機の直行便もありますし、頑張れば日帰りも可能です。同窓会の先生方、もし可能でございましたら、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 教授就任のご挨拶



救急医学教室 教授 <sup>わだ</sup> <sup>たかし</sup> 和田 剛志(81期)

この度、令和6年7月1日付で北海道大学大学院医学研究院侵襲制御医学分野救急医学教室教授を拝命いたしました。私は北海道網走市生まれの生粋の道産子であり、北海道大学に憧れ、この場

所で学びたいと熱望しておりました。その願いが叶い、本学で学び様々な方々に影響を受けてまいりましたが、丸藤哲名誉教授にご指導いただいたことは、私の救急医・救急医学者としての在り方に深く根付いております。人生の師でもある丸藤哲名誉教授が創設し発展させてきた当教室を二代目教授として担当させていただくことを恐惶至極に存じますが、同時にその大任の重さに身の引き締まる思いです。

2007年の入局以来、教室の伝統である「生体侵襲と生体反応の病態生理解明」を研究主題として国内外で基礎臨床研究に従事してまいりました。病的自然免疫凝固炎症反応として生じる播種性血管内凝固症候群の研究は、本邦が世界をリードしてきた領域である一方で、世界的には関心が失われつつあることも事実です。このような趨勢の中、幸いにも同年代の有能な救急医学者との共同研究体制が構築されていま

す。これを通じて、“All Nippon”で世界に発信していくと同時に、独立した学問体系である救急医学をさらに発展させ、次世代に引き継いでいく必要性も認識しております。

戦後の交通戦争により外傷患者のたらい回しが生じ、救急医療システムが構築され救急医療は発展しました。一方で、COVID-19パンデミックでは、平時には気づかない救急医療システムの脆弱性が露わになりました。不測の事

態にも耐えうる堅固な救急医療システムの構築のため、「協調と和」をモットーに、救急医療に関わる全ての方々との協働関係を構築していきたいと考えております。

私共の救急医学教室は、多様性に富む救急医療・救急医学を提供する組織でなくてはなりません。そのために、教室員一人一人の多様な属性を受け入れ、彼らとともに私のこれまでの研究・

臨床・教育の経験のすべてを基に、「活力」、「熱意」、「没頭」のワークエンゲージメントに富む救急医療・医学のスペシャリスト集団として社会に貢献していく所存です。

ご指導ならびにご協力のほどをお願い申し上げます。教授就任の挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## エルムの仲間達へ⑬ 「日本医師会常任理事に就任して」

日本医師会常任理事 さきもと よういち 笹本 洋一(60期)



エルムの皆様、北大医学部60期の笹本洋一です。2023年6月の日本医師会定例代議員会で、日本医師会常任理事の大役を仰せつかり、2024年6月の代議員会で引き続き常任理事に再任していただきましたので、御挨拶させていただきます。

日本医師会の歴史をひもとくと、1916年、開業医中心の大日本医師会の設立を経て、1923年、公法人日本医師会が設立され、全医師強制加入となりました。初代の会長は北里柴三郎先生でした。終戦後の1947年にGHQの命令で公法人日本医師会は解散し、任意設立、任意加入の社団法人日本医師会が誕生しました。現在は公益社団法人日本医師会となっております。開業医中心の団体と考えられていますが、現在の会員数は約175,000名、うち60%が勤務医で、開業医の方が少なくなっています。

日本医師会館は、東京都文京区本駒込にあり、JR山手線で東京駅から駒込駅まで約16分、さらに駒込駅から徒歩約10分で、駒込警察署と文京グリーン

コートに挟まれた、6階建ての立派な建物です。講演会、研修会に使用される500名収容の大講堂が1階にあり、そのほか小講堂、各種会議室があります。

会長1名、副会長3名、常任理事14名は常勤の役員で、原則として月曜日から金曜日まで、日本医師会館及び国の各審議会、各委員会等で仕事をしています。500を超えるこれらの審議会や委員会は、毎週開催されるものもあり、役員が分担して参加しています。一つ一つが日本の医療政策につながり、事務局とともに慎重に対応しています。私は、35の国や関連機関の審議会、委員会に出席し、日本医師会内部の会議、委員会、週末はシンポジウムやフォーラムに参加しています。特に、内閣官房新型インフルエンザ等対策推進会議、厚生科学審議会感染症部会、予防接種・ワクチン分科会等を通じて、感染症対策に取り組んでおります。通常は、都内のホテルに宿泊し、駒込の日本医師会館まで毎日、通勤しております。

これまで、札幌市医師会で理事として4年間、北海道医師会で常任理事とし

て10年間、携わって参りました。昨年、日本医師会役員の任期(2年)の途中で新たな4名の常任理事が加わり、その一人となりました。第21代日本医師会松本吉郎会長のもと、日本医師会の組織強化のため会員数の拡大に全力で取り組むことが最大のテーマとなり、新たな戦略資料を作成し、47の都道府県を4人で分担して訪問し、皆様にご協力をお願いしております。

北大医学部出身の諸先輩が、日本医師会の役員に就かれています。斎藤義太郎先生(1期)が理事、石井碩先生(5期)が監事、皆川忠雄先生(7期)が監事、

菊池勝夫先生(8期)が監事、山崎武夫先生(14期)が理事・副会長、羽田春免先生(15期)が東京都医師会会長を経て第13代会長、吉田信先生(26期)が理事・監事、飯塚弘志先生(37期)が理事、長瀬清先生(40期)が理事、青柳俊先生(43期)が常任理事・副会長、松家治道先生(48期)が監事・理事を務められております。

日本医師会の役割は、皆様とともに国民の生命と健康を守り、安全・安心な医療を届けることです。今後とも皆様のご指導ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



日本医師会館



大講堂

## ズームアップ③⑩ 第14回日本学術振興会育志賞受賞のご報告

北海道大学医学部医学研究院 血液内科学教室 日本学術振興会特別研究員PD せんじょう はじめ 千丈 創(91期)



この度、令和5年度(第14回)日本学術振興会育志賞を受賞いたしましたので御報告いたします。本賞は、上皇陛下の御即位20年にあたり将来我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される大学院博士後期課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的に、平成22年度に創設されたものです。私は博士課程での研究テーマ「カルシニューリン阻害薬はドナー T細胞疲弊抑制を介して免疫寛容導入を阻害する」について、日本血液学会から推薦を受け学術システム研究センターにおける予備選考を経て選出いただきました。本賞受賞による利点として、希望すれば日本学術振興会特別研究員PD(学振PD)に採用されること、また通常では学振PD採用に際して前提となる研究室異動が不問で、採用後も博士課程と同じ研究室に所属できることが挙げられると思います。

私は血液内科医として、同種造血幹細胞移植(同種移植)の成績向上を目指した研究に従事しており、博士課程では同種移植マウスモデルを用いた検討を行いました。将来はマウスで得られた結果を患者検体で検討し、臨床現

場へ還元することを目的としています。当院血液内科では全国トップレベルの症例数の造血幹細胞移植を行っており検体へのアクセスが良好なことや、豊嶋教授、橋本准教授はじめ臨床・研究とも経験豊富で専門性の高い指導者に恵まれ、かつ実験設備が整備された環境のため、博士課程を修了した私にとって、同ラボで研究を継続できることは非常に魅力的な選択でした。応募要項では、応募年4月1日に34歳未満の博士課程学生が対象であり、当時33歳の私には最初で最後のチャンスでした。まず大学長もしくは学術団体学会長の推薦を受ける必要がありますが、私は大学の公募時期には全く応募に思い至りませんでした。研究成果がようやく形になった頃、たまたま所属している日本血液学会の推薦公募があったため、思い切って応募したところ学会長推薦を頂きました。その後、学術システム研究センターでの書類選考に続いて面接選考がありました。面接の日は市立旭川病院にて病棟勤務中だったのですが、幸いオンライン面接が用意され、多くの著名な面接官の先生方が、私の研究の核心に迫る質問を下さいました。詳細は割愛しますが、その面接自体が、

自分の研究の意義を見つめ直し、これから何をすべきかを深く考える充実した時間でした。非常に競争率の高い選考で、まず無理だろうと思い込んでおりましたので、受賞の知らせがあった時には、喜びより驚きが勝りました。

今年2月28日に明治記念館で行われた授賞式では、秋篠宮皇嗣殿下皇嗣妃様との懇話会にて、私の研究に関して直接ご説明する機会がありました。秋篠宮殿下から、血液疾患の最新の治療や学術報告に関して詳細なご質問を頂いたのが印象的でした。3年前に大学院生になった当時、まさか皇族の宮様へ御説明する機会が待っているとは予想もしていませんでしたが、今回このような形で御評価頂いたのは、患者予後の改善を目指して悪戦苦闘してきたことが間違っていなかった証と感じ、大きな喜びと光栄です。

受賞者控室では、文学・物理学・気象学・生物学など、多岐にわたる分野で活躍されている研究者の方々と話し込みました。研究手法の違い、論文掲載までの過程、国際学会の雰囲気まで、まさしく異文化の話を開くうちに、血液内科学、さらに同種移植という専門に狭まっていた私の視野が、一気に広

げられる感覚がありました。時代を変えるようなアイデアは、分野を超えた研究者の交流から生まれるのだろうと思わせる、活気に満ちた雰囲気でした。同時に、世の中に様々な学問がある中で、臨床現場での課題に直面している臨床医こそ、基礎研究で解明すべき命題を自ずと知りえるのだと感じ、人類の普遍的課題に取り組む学問である医学に関わることに、大きな誇りと覚悟を覚える時間でした。

最後になりますが、血液内科学へ導いて下さった豊嶋崇徳教授、本研究の御指導を頂いた橋本大吾准教授をはじめ、私に関わって下さっている皆様に、心から感謝申し上げます。もし、本賞および我々の研究についてご興味のある方がいらっしゃいましたら、いつでもご連絡をいただければ幸いです。



# 新世紀の医学に向けて (50)

## 北海道大学病院にパーソナルヘルスセンターが開設されました ～ゲノムによる疾患リスクをあなたの健康管理に役立ててみませんか?～

この 今野 哲(会員2)



北海道大学病院では、予防医療の一環として遺伝学的検査(ゲノム検査)を活用した保険外の一般向け健診コースを提供するパーソナルヘルスセンター(PHC)を開設し、2024年4月より本格稼働を開始致しました。PHCでは、個人のゲノム情報を解析することで、一人一人に応じた発症リスクを明確にし、専門医への受診や積極的な検診(サーベイランス)を提案したり、食事や運動など予防に向けた生活習慣をアドバイスしたりします。公的医療機関としては道内唯一の取り組みとなります。PHCでは大きく分けて二つのプラン、全ゲノム解析を行う「エグゼクティブプラン」、遺伝子多型等(SNP / SNV)検査の「ウエルネスプラン」を提供します。ウエルネスプランは主に①高血圧 ②ダイアベティス(糖尿病)③認知症の3コースを用意しています。いずれも体成分分析、食事調査票入力、遺伝子多型等

(SNP / SNV)検査用採血を行います。③はさらに神経学的診察、神経心理検査、MRI検査、認知症に関連した血液検査・APOE 遺伝子等が追加されます。

また、ウエルネスプランで提供する遺伝学的検査で特筆すべき点は、ゲノム情報全体を統合的に解析し、複数の疾病関連遺伝子の遺伝子多型等(SNP / SNV)の重み付きの和から算出する高精度のポリジェニックリスクスコア(PRS)を提供することです。1000人中何番目にその疾患になりやすいのかがわかります。

エグゼクティブプランは健康管理に役立つ遺伝性疾患や薬物代謝等に関わる124の遺伝子を解析し、いずれかに変化がある場合、専門家による検討会議を開催した上で最終レポートを作成し、臨床遺伝専門医から受検者にお伝えします。判明した癌を発症しやすい体質をもとに積極的な検診(サーベイランス)の提案ができること、心血管系あるい

は代謝性疾患の早期発見・早期管理が可能になること、あるいは薬物の副作用の出やすい体質などが判明することで薬の安全な使用に役立てることなど、積極的な健康管理(先制医療)が可能になります。

1回目の受検から1~2ヶ月(エグゼクティブプランでは2~3ヶ月)後の2回来院時に専門医による結果説明と健康相談を行います。その際にオプションとして、栄養・運動相談、さらに認知症予防が期待されるMIND食弁当を選択できます。料金はエグゼクティブプラン(全ゲノム解析)60万4600円、ウエルネスプランは①高血圧と②ダイアベティス(糖尿病)3万3000円、③認知症9万3800円です。検査結果が出るまでの期間は、エグゼクティブプラン2~3カ月、ウエルネスプランでは2カ月程度かかります。

今後は地域連携協定を締結している病院・クリニックの皆様からゲノム検査

による予防に興味をお持ちの患者様や受検者をご紹介いただき、疾患が疑われない場合には、ご紹介いただいたクリニック・病院に戻っていただき、PHCの検査結果(ゲノム情報等)を付加して診療を継続いただきます。エグゼクティブプランで遺伝性疾患が発見された場合には北大病院臨床遺伝子診療部で対応させていただきます。

また、ウエルネスプランやで疾患が発見された場合には、程度に応じて北大病院軽度認知障害センターや糖尿病・内分泌内科、または近隣の医療機関へご紹介します。皆様との連携により、市民、道民の健康意識を高め、遺伝学的検査を活用した継続した個別化した診療を行うことが期待されます。健診結果は受検者自身のスマートフォン等端末に専用のパーソナルヘルスレコード(PHR)アプリをダウンロードすることで閲覧できるため、かかりつけ医の皆様と情報共有しながら、生活習慣改善にもつながられます。

また、受検者数が増えることで、遺伝学的な地域特性なども明らかになる可能性もあることから、今後は自治体やヘルスケア関連企業との協業にも力を注ぎ、同サービスの周知を図ることで、健康経営優良法人に認定されている企業など福利厚生の一環として健診費用の一部を助成するなどの取り組みを広げることを考えています。

予約はHPで受け付けています。遺伝学的検査に興味のある方、人間ドックを受検したことのない方もお気軽にご紹介ください。

PHCの詳細はHPをご覧ください。  
<https://www.huhp.hokudai.ac.jp/personal-health-center/>  
 〒060-8648  
 北海道札幌市北区北14条西5丁目  
 北海道大学病院  
 パーソナルヘルスセンター  
 【お問い合わせ】  
 phc\_hok@huhp.hokudai.ac.jp

**Hokkaido University Hospital Personal Health Center**

**ウエルネスプラン** 93,800円

- 認知症コース** 33,000円
  - 専門医による問診、神経学的診察
  - 遺伝子多型等検査 ポリジェニックリスクスコア
  - MRI検査
  - 心理検査
  - 血液検査 (認知症に特化した検査含む) 体成分分析 食事調査票
- 高血圧コース** 33,000円
  - 専門医による問診
  - 遺伝子多型等検査 ポリジェニックリスクスコア
  - 血液検査 体成分分析 食事調査票
- ダイアベティスコース** 33,000円
  - 専門医による問診
  - 遺伝子多型等検査 ポリジェニックリスクスコア
  - 血液検査 体成分分析 食事調査票

結果説明、健康相談 オプション 栄養・運動指導、MIND食弁当

検査による予防に興味をお持ちの患者様や受検者をご紹介いただき、疾患が疑われない場合には、ご紹介いただいたクリニック・病院に戻っていただき、PHCの検査結果(ゲノム情報等)を付加して診療を継続いただきます。エグゼクティブプランで遺伝性疾患が発見された場合には北大病院臨床遺伝子診療部で対応させていただきます。

# 「海外で活躍する同窓生(33)」

よしだ のぶや 吉田 修也(79期)

こんにちは。79期の吉田修也と申します。同窓会誌への寄稿のお誘いをいただき、ありがとうございます。北海道大学免疫・代謝内科学教室(第二内科)で膠原病や自己免疫疾患の臨床と研究を経験させて頂いたことがきっかけで、特にSLE(全身性エリテマトーデス)の病態や病因に深い興味を持ち、科学者としての道に進みました。千葉大学分化制御学教室への国内留学を経て渡米し、米国の研究機関(Beth Israel Deaconess Medical Center, Division of Rheumatology and Clinical Immunology)で約10年間勤務した後、現在はボストン近郊のバイオテック企業の研究部門で、主に新規抗体製剤の研究に従事しております。

私が北大を卒業し、基礎研究を始め

た頃は、生物学的製剤が自己免疫疾患の治療に使用されるようになっていく時期でした。それから約20年が経ち、今では多種多様な新規生物学的製剤が、様々な適応症に対して研究、開発され、市場に出回るようになりました。さらに、CAR-T細胞療法に代表される様な、次世代の治療法も自己免疫の分野でも、開発や臨床研究が進められて来ています。私は、研究の立場からこのような最先端の流れを感じ続けられることに大変感謝しています。

研究の手法も大きく発展しています。ゲノムレベルや転写レベル、蛋白の発現、修飾レベルの網羅的な解析が進み、さらには一細胞単位での解析やその詳細な組織学的な位置情報さえ、これらの網羅的な解析に考慮されるように

なって来ました。そして、昨今のAI技術の発展は更にそうした解析能力を飛躍的に向上させています。しかしながら、一般化や均一化だけでは説明できないことも同時に認識されてきており、網羅的な解析だけでは手の届かない、より特定の範囲、疾患カテゴリーに絞った研究の重要性も再確認されているように感じております。

多くの治療オプションが存在し、今後も増えていくであろう中で、適切な判断基準の不足していく事が、大事な課題の一つと考えています。そして、創薬の立場からその課題に貢献していくことが、今の私の使命と考えています。同時に、その問題の解決に寄与する新たな発見の中から、さらなる治療薬の研究に繋がることが出来たら、更

に良いだろうと思います。

最後となりまして大変恐縮ですが、日本在住時にお世話になった先生方、渡米後にお世話になった先生方に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。それと、これまで自身の研究を全方面から理解し、支えてくれた、妻と息子、犬(写真)に深く感謝したいと思います。どうもありがとうございます。



# 「新歓隊長」

医学科2年 **武田 稜也**(第105期)

令和6年4月3日、これからの大学生活へ大きな希望とちょっぴりの不安を胸に抱えた106期医学科新入生が、医学部図書館に集まりました。大勢の先輩方に囲まれ緊張している1年生。新型コロナの流行もある程度収束し、対面新歓式が復活した今年、私、北大医学部バスケット部新歓隊長105期の武田が、対面新歓式の司会を務めました。

まだ新型コロナが流行する前、我々北大医学部バスケット部は代々対面新歓式の司会を務めていたそうです。また、新入生の自己紹介の流れを仕切るだけでなく、式を盛り上げるための漫才などもしていたそうです。その話を私が知ったのは去年の秋。プレーヤー・マネージャーともに人数不足に悩んでいた弊部は、「次の新歓で失敗できない」と背水の陣に立たされていました。向けられる期待のまなざし。微塵も部の戦力に貢献できていない私が活躍する場はこしかならないと思ひ、対面新歓式

の司会、そしてピンのフリップネタを披露することになりました。

留年した同期、はよりのインターネットネタ、自爆覚悟の個人情報盛り込んで作った渾身のネタは、見事に大ウケ。これをきっかけに弊部の新歓は大いに盛り上がり、今年には5人のプレーヤーおよび12人のマネージャーが新しく入部してくれました。新歓隊長として、これ以上ないほどの成績を残せたと思います。

さて、最終的には大成功に終わった新歓ですが、もちろんすべてが順調だった訳ではありません。2年生になり、一気に学業が忙しくなった中での新歓だったため、その両立にはかなり苦労しました。具体的には言えないのですが、あと少しで取り返しつかないことになるところだったミスが私が犯してしまったこともありまして。おそらく、自分では気づいていないだけで、その時点でかなり疲弊していたのだと

思います。

それだけではありません。私は北医軽音部にも所属しており、4月は新歓ライブがあったため、その練習も同時並行で行わなければなりません。加えて週2~3のペースでバイトもしていたため、4月の私は、①忙しくなってまだ慣れていない学業 ②バスケット部の新歓 ③軽音部の新歓ライブ練習 ④バイトの4つを掛け持ちしていたこととなります。それはとても19歳の大学生が抱えきれない忙しさではなかったと、今になって思います。大きなミスをすることもありましたが、周りの先輩方や友人・恋人・家族の支えのおかげで、なんとか4つ全てを満足のいく結果で終わらせることができました。

今回の新歓隊長としての仕事を通じてたくさんの方のことを学びました。まずは、自分のキャパシティについてです。多忙である医師を目指す者として、現時点で自分がどれだけのストレスに耐えられて、そのストレス下でどれだけのパフォーマンスを出せるかを把握できたのは、とても貴重な経験だったと思います。5月以降はこれを1つの指標にして自分のスケジュール管理ができ

たため、学業・バスケ・軽音・バイト・プライベートを全て充実させながら日々を過ごすことができていると思います。

また、改めて自分は周りの人間に支えられて生きているのだと実感しました。普段は茶化し合っている、本当につらいときは支えて励ましてくれる関係の人が周りにたくさんいたことに気づかされました。いろいろな面で、人として大きく成長できた1ヶ月だったと思います。

来年度も、恐らくは再び私が対面新歓式の司会を務めると思います。107期新入生も、楽しく、そしてあたたかく迎えられるよう、まずは自分自身の研鑽を積み続けようと思います。



対面新歓式の様子

## 告知板

### <教授就任挨拶>



関西医科大学  
乳腺外科学講座  
主任教授  
たかだ まさひろ  
高田 正泰 (76期)

2024年4月1日付で関西医科大学乳腺外科学講座主任教授を拝命しました。

2000年に北大を卒業後、都立駒込病院での修練を経て、2007年から京都大学で診療・教育・研究に従事しました。この間、

S-1の術後治療としての保険適応につながった大規模臨床試験を担当しました。新規医療機器開発にも携わり、ものづくり日本大賞経済産業大臣賞を受賞しました。卒業後に北大旧第1外科で背中を押していただいたことが、現在の活動につながっています。今後も乳癌診療の発展のために尽力いたします。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

### <学内・院内人事異動>

#### <辞職>

令和6年 4月30日 中谷 純(71期) 先端画像診断開発学分野 特任教授(未定)

#### <採用>

令和6年 6月 1日 東海林菊太郎(86期) 脳卒中・循環器病ICT医療連携研究部門 特任助教  
8月 1日 白鳥 聡一(80期) 血液内科 助教  
9月 1日 吉田 篤司(84期) 神経生理学教室 特任助教

#### <昇任>

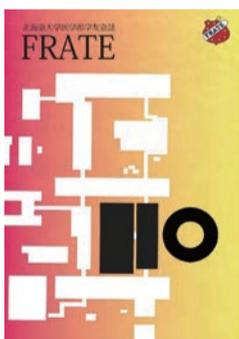
令和6年 7月 1日 和田 剛志(81期) 救急医学教室 教授(同教室助教)  
8月 1日 種井 善一(84期) 病理診断科 講師(医学研究院助教)

#### <割愛・その他>

令和6年 9月 1日 福原 崇介(会員2) 病原微生物学教室 教授  
(九州大学大学院医学研究院教授)  
病原微生物学教室 招へい教員(客員教授)

## フラテ110号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部



同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援を賜り、今春に「**フラテ110号**」を無事発刊することができました。

しかし、**同窓会新聞によるお申込**

**み受付の時期が例年と異なったため、いつもご購入くださっている皆さまの多くにお届けできておりません。**「フラテ110号」では、ここ数年中止していた、全国の北大出身の先生方を訪ねる「**各地に行く**」が再始動し、東京フラテ会やその会長の畠山昌則先生、聖路加国際病院、東京慈恵会医科大学附属病院、社会医療法人財団大和会の東大和病院と武蔵村山病院を取材させていただきました。その他にも、北海道立子ども総合医療・養育センターに伺った記事や、基礎医学研究を行う先生と学生の対談記事、医師とジャーナリストの二刀流で活躍されている村中璃子先生への取材記事など、盛りだくさんの内容となっております。

また、現在は来春発行予定の「**フラテ111号**」を鋭意製作中ですのでご期待下さい。

近年は若い先生方からのご購読が減少傾向にあります。興味を持って頂けた先生がいらっしゃいましたら、是非ご購入ください。

110、111号を含め、フラテ冊子をご購入くださる方は、同封の**払込用紙**または、**QRコード**からお支払いをお願いいたします。電話でのお申し込みは受け付けておりません。すでに110号巻末の用紙で申し込まれた方は今回申し込み必要はございません。



おすすめ!バックナンバーもあります!久しぶりの購入や、ご自身の在学中のフラテを眺めたい方もぜひこちらから

### フラテ茶苑 寄稿者募集

フラテ茶苑では、卒業後の先生方からのご寄稿文を掲載しております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等をご投稿いただけます。多くの学生が読んでおり、北大出身の先生方の多彩な分野でのご活躍は学生にとって視野を広げる格好の機会となっております。ご寄稿をお待ちしております。

○内容・形式・字数:自由(専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など)

○〆切:2024年11月30日

### フラテ編集部

E-mail:frate.med@gmail.com  
〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
北海道大学医学部内

次号に新刊書紹介をご希望の方は、右記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】2024年10月22日(火)までにお送りください。

【字 数】本文600字以内でお願いいたします。※本文の前に「タイトル」、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)、出版社名、金額(税込)を、最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】表紙の画像をメールに添付してお送りください。

【書評執筆者】著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2も含む)に限ります。

【原稿送付先】frate@med.hokudai.ac.jp

【掲 載 号】新聞180号(1月号、1月中旬頃発送開始予定)

# 事務局からお知らせ

## 会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されていますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。処分が困難な方は、同窓会事務局へ送ってください。なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。

○送付先  
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北大医学部百年記念館内  
北海道大学医学部同窓会事務局  
【冊数が多い場合】日時指定の上、必ず「百年記念館」宛にしてください。  
※月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）：10時～16時まで

## 同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。  
○会費納入は次のいずれかの方法によります  
①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込 ※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

## ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名以上の会員が加入して、ご好評をいただいています。本制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。  
年度途中でも加入出来ますので、同窓会事務局または取扱代理店にお問い合わせください。

〈同窓会事務局〉  
電話：011-706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
〈取扱代理店〉  
株式会社第一成和事務所  
〒103-8214 東京都中央区日本橋

馬喰町1丁目12番3号 Daiwa日本橋  
馬喰町ビル3階  
フリーダイヤル：0120-100-492  
E-mail：  
koumu@d-seiwa.co.jp



## 百年記念館の利用について

### お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当  
TEL: 011-706-5004 FAX:011-717-5286  
E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp  
【受付時間】月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）午前10時15分から午後5時まで

※同窓会事務局では予約および予約状況の確認は出来ません。

## 過年度会費が2年を超える会費未納者と同窓会員名簿の発送について

### 【令和6年度同窓会員名簿について】

過年度分未納額が1万円を超えている方の納付期限は2024年9月30日としております。年度内(2025年3月31日まで)ではありませんので、ご注意ください。印刷経費等高騰のため、予備の印刷部数を減らし経費節約に努めておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

### 【過年度分の名簿および会誌について】

後日滞納分を納付いただきましても、在庫不足のためお送り出来ない場合がありますので、ご了承願います。

# 北海道医学会からお知らせ

## ○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。  
本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

## ○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。  
なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。  
入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

## ○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和6年は第99巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

## ○会員の状況（令和5年12月31日現在）

- ・一般会員 531名（年会費 4,000円）
- ・学生会員 2名（年会費 1,000円）
- ・特別会員73団体（年会費 25,000円）
- ・名誉会員 169名

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

## ○お問い合わせ先

北海道医学会事務局  
電話：011-706-5007  
E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp

## 【令和6年度同窓会員名簿】記載事項確認のお願い

本年度は、11月下旬に同窓会員名簿の発送を予定しております。住所変更等がございましたら、今回の同窓会新聞に同封いたしました最新の「会員登録情報変更届」を、10月15日（火）までに投函してください。（電話以外のE-mailまたはFAX等でお知らせいただいても結構です）印刷の都合上、期日までにご連絡のない場合、修正・変更がないものとさせていただきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 一面の写真説明

### 「大野池の睡蓮」

蝦名 康彦 (66期)

晩年のクロード・モネは、自宅にある睡蓮の池を題材にした多くの作品を残している。彼の作品は、睡蓮の花や葉だけでなく、池の周りの木々や空が映り込む水面の表現にも及んでいる。1921年には松方幸次郎がジヴェルニー

のモネのアトリエを訪れ、睡蓮の絵を購入した。その絵はその後、世界恐慌や世界大戦を経て数奇な運命をたどり、現在は国立西洋美術館で観ることが出来る。さて写真は、サクシュコト二川の中流部に位置する「大野池」である。当時の工学部長であった大野和夫教授の提案により、湿地帯を池に改修された。池の環境整備は、川の水を復活させるプロジェクトの一環として行われ、現在では地域住民の憩いの場となっている。

### 編集後記

巻頭写真を担当したご縁から、2年前から編集委員の末席でお手伝いさせていただいております。そして、本号では自身3度目の巻頭写真掲載と同時に編集後記の担当も務めることになり、不思議な巡り合わせを感じております。ちょうどパリオリンピックで熱戦が繰り広げられています。東京オリンピッ

クでマラソンランナーが北大構内を駆け抜けてから、もう3年も経ったことに驚きを感じます。目まぐるしく変わること、古くから変わらないこと……そのバランスの良い共存を目指したいものです。  
ご多用の中でご寄稿をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。  
(66期 蝦名康彦)

## ご逝去者

新聞178号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2023年	鈴木 三郎	20	6月22日	鈴木 暉 男	39
10月23日	高橋 明 男	36	6月23日	梶 山 政 義	67
2024年			6月23日	齋 藤 雍 郎	専5
1月4日	高橋 洋 行	57	6月25日	渡 邊 正 夫	53
1月10日	佐々木 卓 爾	30	7月10日	柘 植 洋	51
3月9日	三 國 主 税	33	7月14日	齊 藤 弘	42
5月23日	砂 金 克	41	7月31日	研 谷 靖	35
5月23日	薄 井 正 道	43	8月2日	真 鍋 知 巳	専7旧
5月28日	北 嶋 顯	会員(2)	8月5日	大 関 覚	57
5月30日	棚 橋 祐 典	66	8月18日	南 永 勝	40
			8月24日	末 永 義 圓	会員(2)